

とちぎの田園
ふるさと風景百選

ひがしみづぬま
43 東水沼

春の唐桶溜

唐桶溜（かるけのため）は豊かな環境と美しい景観が保全された農業用のため池で、全国の「ため池百選」にも選定されています。周辺にはシダレザクラやソメイヨシノが植えられ、ハクチョウを始めとする鳥類や多種多様な水生動物等が生息しています。また近くには多目的広場や親水施設が整備され、人々の憩いの場所にもなっています。



県中央部、JR 宇都宮駅から東へおよそ10 kmに位置する芳賀町 東水沼。南へと流れる野元川の両岸には、広々とした水田地帯が広がっています。地区の中央には、天神七代・地神五代の神を祀る「十二所神社」が鎮座し、近くには県内でも有数の規模を誇る免の内台遺跡や藤山古墳群が残るなど、悠久の歴史が息づく農村集落です。

とちぎの田園
ふるさと風景百選

下都賀地域



- 栃木市
 - 44 宮町
 - 45 大平町西山田
 - 46 藤岡町大前
 - 47 都賀町白久保
 - 48 都賀町大柿
 - 49 西方町本城
- 下野市
 - 59 仁良川
 - 60 下古山
 - 61 柴
- 壬生市
 - 62 下稻葉
 - 63 羽生田
 - 64 藤井
- 小山市
 - 50 大本
 - 51 寒川
 - 52 下国府塚
 - 53 下生井
 - 54 白鳥
 - 55 大行寺
 - 56 田間
 - 57 羽川
 - 58 間々田
- 野木町
 - 65 野木
 - 66 野渡
- 岩舟町
 - 67 小野寺



宮の堤桜

永野川の堤防に沿って植えられた約2kmにわたる桜並木は、地域住民の安らぎの散歩道になっています。川面に映る色鮮やかな桜は、えもいわぬ美しさを醸し出しています。



県南部、栃木市の市街地から北西に約5kmにある宮町。足尾山地を水源とする永野川が地区の中心を流れています。この地域では、江戸時代から作られてきた伝統野菜、別名「ダルマねぎ」とも呼ばれる「宮ねぎ」が栽培されています。永野川によって運ばれた粘土質土壌が育む宮ねぎは、味と香りに定評があります。



ぶどう団地の輝き

栃木市大平町のぶどう団地には70を超えるぶどう園があり、促成栽培用のビニールハウスが田園一面に美しく広がっています。



県南部、栃木市の市街地から南西約5kmに位置する大平町西山田。太平山の南山麓には、広大なぶどうの果樹園が広がっており、北関東屈指の規模を誇る「ぶどう団地」として知られています。団地内にある公園「かかしの里」の景勝地「片岡山」からは、筑波山、東京スカイツリー、富士山の三名所を眺望できます。

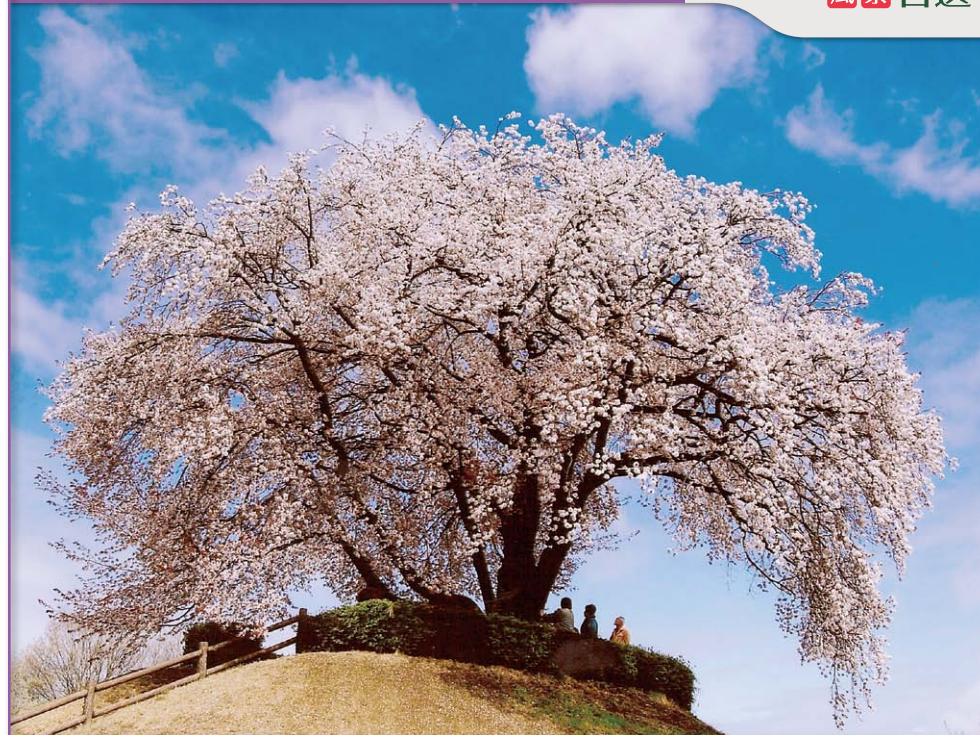


春の訪れ

残雪を抱く日光連山を背景に、里山では山桜が色づき始め、鮮やかな黄色い菜の花が辺り一面に咲き誇ります。風に乗ってたどよう菜の花の香りが春の訪れを感じさせてくれます。



県南部、渡良瀬遊水地のすぐ北に位置する栃木市藤岡町大前。平坦な田園地帯の中央には東武日光線が縦断しています。かつてこの地区には小さな沼がたくさんあり、江戸時代から、コイやフナ、ナマズなどの川魚漁が盛んに行われていました。今でもフナの甘露煮は藤岡町地域の名産品として親しまれています。



つがの里シンボル山桜

都賀町白久保には、花と歴史ロマンをキャッチフレーズとした観光拠点「つがの里」があります。自然環境あふれる園内には数種の桜が約千本も植栽されており、中でも小高い岡の上にある樹齢160年の山桜の姿は見事で、これを目当てに多くの人が訪れます。



県南西部、足尾山地の裾野にある栃木市都賀町白久保。自然公園「つがの里」の東から、百川溪谷を源流とする永野川の沿岸にかけて、水田を中心とした田園風景が広がっています。都賀の里ふるさとセンターでは、県指定の伝統工芸品「都賀の座敷蓑」の販売や地粉を使用した手打ちうどん、手作り豆腐などが提供されています。

つがまちおおがき
48 都賀町大柿

大柿の郷

都賀町大柿は、日光連山の裾野に広がる自然豊かな農村地域です。春には里山一面に薄紫の可憐なカタクリが咲き誇り、夏には山あいを流れる清流逆川でホタルの乱舞を見ることができます。



県南部、栃木市の市街地から北に約10 kmに位置する都賀町大柿。カタクリ群生地をはじめ龍興寺のシダレザクラ、山野草を中心とした植物園「花之江の郷」など多くの花の名所があります。地域の活性化を目指して創設された「大柿村ほたるの里より処」では、地元産のお米で作られた米粉のお菓子が人気を呼んでいます。

にしがたまちほんじょう
49 西方町本城



命の源 小倉堰

小倉堰は関東の三大堰といわれ、元々の堰はおおよそ400年前に造られました。ここから取水した水は、思川右岸の水田地帯に農業用水として供給されるとともに地域の生活用水にも利用されています。



県南西部、中央を東北自動車道が縦断する西方町本城。地区の東部には、江戸時代より「西方五千石」といわれるほど米どころの肥沃な水田地帯が広がっています。小倉堰の近くには、地元の人々から「水神様」と呼ばれ大切に守られてきた「小倉水神社」が祀られています。



篠塚初午祭「流鎧馬」

「篠塚初午祭」は、毎年3月、集落の無病息災と豊作を祈願して、五色の布や布団で飾り立てた「飾り馬」が地区内を練り歩き、篠塚稻荷神社に参向する祭りです。神事が終わると馬の飾りを解いて流鎧馬（やぶさめ）が行われ、3つの矢の当たり具合で農作物の作況を占います。

篠塚初午祭「飾り馬」



篠塚稻荷神社と鎮守の森



県南部、小山市の市街地から北西約6kmにある大本。思川右岸の平地に広がる穀倉地帯で、東には地域の水田を潤す美田東部幹線用水が流れています。またこの地区では畜産業も多く営まれ、多くの牛舎を目にすることができます。細い路地が残る集落には所々に旧家が見られ、昔の農村の情緒を今に残しています。



春の陶形神社

寒川に鎮座する陶形神社は延喜式内下野國十二社巡りの一つとされる由緒ある古社です。別名「寒川天満宮」とも言い、地元では「寒川様」と呼ばれ親しまれています。



花桶かつぎ

「花桶かつぎ」は寒川地区に古くから伝わる伝統行事です。七五三のお祝いをする7歳の女の子たちが美しく着飾り、梅の花で飾られた花桶をかつぎ、陶形神社まで練り歩きます。この祭りには五穀豊穡や家内安全、また子どもたちの健やかな成長の祈りが込められています。



水田に浮かぶ塚と鷺

寒川にはかつて「寒川古墳群」といわれる12の古墳がありましたが、今ではそのほとんどが姿を消しています。田の水面に映る古墳と舞い降りた白鷺たちの光景は、のどかな寒川を代表する美しい田園風景です。

麦秋



県南部、小山市の市街地から南西約7kmに位置する寒川。巴波川の左岸に開けるのどかな水田地帯です。この地区では「寒川ウォーキング」など独自のイベントが開催され、地域の連帯感が深められています。現在、巴波川の恵みへの感謝と堤防決壊の再発防止の祈りを込めた公園整備が進められ、地域の交流、憩いの場として期待されています。



田植え前の水田の夕景

“道の駅思川”西側の田園地帯では、水が張られた田植え前の水田が夕焼けに染まり、美しくも幻想的な風景をつくり出します。



旧家と田園

下国府塚には江戸時代そのままの長屋門のある旧家が多く残っており、農業の長い歴史を感じさせてくれます。



県南部、国道50号線沿いの「道の駅思川」からおよそ1キロほど北に位置する小山市 下国府塚。思川と巴波川の間広がる平坦な田園地帯です。集落の中心には、この地区で代々名主を務めてきた岸家の住宅が静かに佇み、江戸時代、創建当時の風情を感じることができます。

渡良瀬遊水地のヨシ焼き

4県6市町にまたがる渡良瀬遊水地では、貴重な湿地環境の保全や害虫駆除のためにヨシズ生産農家らによるヨシ焼きが毎年行われ、春の風物詩となっています。



旧思川

思川の改修によって、蛇行していた約1kmの旧川筋が残りましたが、今では地域住民の憩いの場とする周辺整備が進められています。



ヨシズ編み

小山市では、大正時代から農家の副業としてヨシズ編みが発展しましたが、現在では市内でただ一軒が生産を続けています。



県南部、小山市の南西端に位置する下生井は、思川と巴波川に挟まれた平坦な水田地帯です。地区の南にある渡良瀬遊水地ではヨシやオギなどが生い茂り、6月には、明治期まで国内有数の養蚕地だったなごりを残す桑の木が次々と赤紫色の実をつけます。かつてこの地で歌われた「生井の桑摘み唄」は、保存会によって今も伝えられています。



菜の花と与良川排水機場

思川と巴波川に挟まれた平坦な湿地帯であるこの地域は長い間、洪水被害に悩まされてきましたが、今では大規模な排水機場が整備され、農業や生活が守られています。



日の出祭り

“日の出祭り”は、かつて供え物を持った行列が日の出を合図に八幡宮へ向ったことから、その名で呼ばれています。神事後、鳥居に吊るした鬼の面を弓矢で射抜き、その年、村に悪霊が入るのを阻み、豊作を祈願する伝統行事です。

渡良瀬遊水地の風景

渡良瀬遊水地には全国でも最大級のヨシ原が広がり、様々な動植物の宝庫となっています。遊水地内にはスポーツゾーンや子ども広場ゾーンなどもあり、多くの人たちがこの地を訪れます。



イワダレソウの景観

除草剤の削減など“環境にやさしい農業”を進めるため、地域ぐるみでイワダレソウの植栽が行われています。



県南部、小山市の市街地から約11km南西に位置する白鳥。思川と巴波川に挟まれた平地には広々とした田畑が広がります。巴波川から引き上げられたとされる御神体が祀られた地区の鎮守「白鳥八幡宮」では、毎年2月2日(旧暦1月11日)、県内でも数少ない頭屋制のなごりを留める古式祭礼が執り行われます。



豊穂川の桜

小山市の旧豊田村から穂積村を流れる豊穂川は、今から70年前に水害対策として造られました。春には川の両岸に見事な桜が咲き誇り、夜にライトアップされた光景は、桜の華やかさをさらに感じることができます。

大行寺の大杉神社夏祭り

大行寺地区のお祭りでは、台車に乗せたおみこしが出され、地元の幼稚園児や小学生が元氣よく集落の中を引き回します。



県南部、JR 小山駅の西を流れる思川を渡って南に下ると、小山市 大行寺の集落があります。路地裏に入ると今もなお昔ながらの小径が残るこの地区には、壮大な長屋門を持つ家があちこちに見られます。地区の中央には豊穂川が流れ、西部には整備された水田地帯が広がっています。